

あとがき

昭和14年3月の長野県砂防課発足以来、昭和で50年、平成で30年、合わせて80年が経過しました。時代が平成から令和に変わるこの機会に3冊目となる「長野県砂防史2020」を発刊する運びとなりました。

本誌は、昭和47年、当時の松林正義課長をはじめとする砂防課の先輩方のご尽力により初めて編纂された「長野県の砂防」と、平成4年、当時の大久保駿課長他皆様により砂防課設置50年記念誌として再編集された「長野県砂防史1992」の改訂版として取りまとめました。編集を終えた今、改めて平成の時代での様々な変化を実感しているところです。

新たな内容としては、「平成」に多発した災害の記録、それら災害対策を含め、県土を強化するためのハード、ソフト両方での砂防等事業、長野県の大きなエポックとなった長野オリンピックと砂防、新たな「土砂災害防止法」の制定と運用、いのちを守る砂防等事業の柱である災害時要配慮者対策、さらには制度改革として、治水事業計画から社会資本整備重点計画への移行など、多岐にわたりました。

一方で、Web環境の飛躍的進展で各種データ検索システム等が整備されていることから、掲載データの一部を簡素化しました。

今回、砂防課員一同、情報の収集や原稿執筆にあたりました。各位の尽力にあらためて感謝します。そして何より、本書の発刊含め、長野県の砂防事業にご理解とご支援をいただいている長野県治水砂防協会の会員の皆様に心より感謝申し上げます。

初刊「長野県の砂防」のあとがきに次の記載があります。

「郷土を愛し、子や孫の安全を願う人間としてのささやかな、しかしぎりぎりの願望の結晶したものが、長野県いたるところにある砂防設備という形になって存在します。いま私達は、これら先人の努力の跡を振り返ってさらに自らの覚悟をあらたにするためにここに『長野県の砂防』を編集いたしました。」

思いは、「長野県砂防史2020」においても全く同じです。令和の時代は、未曾有の台風災害と新型コロナウイルス感染拡大という社会全体を覆う不安とともに始まりました。社会的課題が多様化しているなか、私達砂防を担う者は、激甚化・頻発化する水害・土砂災害を前にして、防災・減災が主流となるこれからの社会を見据え、長野県の砂防の歴史と先輩方の功績に敬意を表しながら、大胆な改革にも果敢に挑戦する覚悟をもって取り組んでいかなければなりません。

今後とも長野県の砂防に対し、皆様の叱咤激励と愛情あるご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

令和3年（2021年）3月

長野県建設部砂防課長 藤本 濟

長野県砂防史2020
〔砂防課設置80年記念〕

発行 令和3年（2021年）3月
編集・発行 長野県建設部砂防課
長野県治水砂防協会
印刷 株式会社柏与ビジネスセンター